

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 2月 22日

事業所名 放課後デイサービスえ〜る

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		5	年齢差でのグループ分け。時間差や室内と、外で活動を分ける。	子どもたちの成長に伴い、雨天時に気持ちの発散ができないことがある。市の体育館などを積極的に活用する。
	2 職員の配置数は適切である		5	障害特性や状態によっては不足を感じる。職員の休みが入ると手薄になる。	求人を出しているが、募集が少ない。募集の在り方を検討している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	3	やや不足	今は車いすの利用者がいないが、将来的に不備が出てくる可能性がある。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1		支援会議を定期的実施し、職員に対する訓練をする。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		検討課題として理事会で議論を進める。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		利用者の特性に合わせた検査器具の充実や職員の技術習得に務める。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		週のリーダーが週案を作成し、職員会議で検討している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		年度計画に沿って毎週立案している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		毎日打ち合わせを実施	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		翌日の打ち合わせで実施。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	1		職員間で知識に差がある。ガイドラインの勉強会などを実施し、支援の質の改善をはかる。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			学校側からの情報の提供が少なく、必要に応じてこちらから連絡して情報を取得している。お互いの情報の共有のためにも紙での報告を実施していく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2			現在該当利用者がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	情報をもらえない事が多い。		個人情報保護法により、情報の取得が難しい。働きかけは継続している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3		移行時の担当者会議に出席した。		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		連携はしているが、研修は受けていない。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5		夏休みに訪問した。		回数を増やし、子ども同士の触れ合いの工夫を図る。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1			人間的に参加が難しい。業務の工夫をして参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		連絡帳を活用。送迎時に報告したり、電話で報告したりしている。		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2	研修の案内などは配布している。モニタリングなどの際に個別にしている。母子の声にしっかり耳を傾ける。		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に説明する		質問が出てきた時に、その都度説明している。保護者交流会などの機会を利用して話をする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		適切かどうか日々悩んでいる。		職員の研修を充実させる。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	親子遠足などの行事の際に実施している。		親の会の立ち上げに協力。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		速やかにできていないか分からない。		苦情解決の体制を明確にし、ホームページに掲載する。職員の研修を実施する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	年に3回発行。ホームページにも掲載している。		
	35	個人情報に十分注意している	4		個人情報に関する意向調査や同意書の取得などを実施している。		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		コミック会話やロールプレイングなどを実施し理解に努めている。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	休校日などに、ボランティアの受け入れや、学童クラブなどに出向いている。		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4	保護者に周知できていない。防犯マニュアルが不足している。	至急整備する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		年に3回実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		事業所内外での研修を実施。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		5		マニュアルを作成し、職員間での意思の統一を図り、保護者へ周知する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	医師との連携は出来ていないが、保護者と綿密に連絡を取っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		日々の打ち合わせで確認している。	事業所内外での研修を実施する。